

各学科の研究業績等（令和元年10月～令和2年9月）

人間科学科哲学分野

[学術論文（和文・原著）]

- 1) 遠藤寿一：死の多元論とインテグリティ. 岩手医科大学教養教育研究年報. 54：19-26（2019）

人間科学科法学分野

[学術論文（和文・原著）]

- 1) 廣瀬清英：法学教育への反転授業の導入. 岩手医科大学教養教育研究年報. 54：47-56（2019）

[国内学会発表（全国・一般講演）]

- 1) 廣瀬清英：医学教育における医療法学. 第52回日本医学教育学会大会. 2020年7月. 大会予稿集誌上発表・医学教育51補：99.

人間科学科心理学・行動科学分野

[学術論文（英文・原著）]

- 1) Fujisawa, M., Otsuka, K., Nakamura, H., Endo, J., Koizumi, N., Akahira, M., Fukumoto, K.: Relationship between experience of support of clinical psychologists in mental health and welfare activities in disaster-stricken areas and skill proficiency level. Journal of Iwate Medical Association. 71：161-182（2019）

[学術論文（和文・原著）]

- 1) 相澤文恵, 佐藤洋一：多職種連携教育への行動科学の応用. 岩手医科大学教養教育研究年報. 54：27-34（2019）
- 2) 藤澤美穂, 氏家真梨子, 畠山秀樹, *高橋智幸, 遠藤太, 松浦誠：看護系学部における実習ストレスへのサポートに関する文献検討. 岩手医科大学教養教育研究年報. 54：35-45（2019）
- 3) 松浦誠, 藤澤美穂, *藤原邦彦, *千葉健史, 工藤賢三, 高橋寛, 佐塚泰之, *豊田俊介, *前田智司：薬学長期実務実習における唾液アミラーゼ活性値を指標としたストレス評価のパイロット研究. 医薬品相互作用研究. 44：21-32（2020）
- 4) 相澤文恵：ナラティブ・ベイスド・メディスンへの行動科学的アプローチ. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）〔2017～2019年度報告〕研究課題：医療倫理教育のためのG. グリーン作品のナラティブ解析研究報告書（研究代表者：柳谷千枝子）. pp. 49-59（2020）
- 5) 藤澤美穂：災害支援とナラティブ. 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）〔2017～2019年度報告〕研究課題：医療倫理教育のためのG. グリーン作品のナラティブ解析研究報告書（研究代表者：柳谷千枝子）. pp. 31-48（2020）

[国内学会発表（一般講演）]

- 1) 相澤文恵, 藤澤美穂, 木村祐輔, 佐藤洋一: 岩手医科大学版iPEGとマインドマップの多職種連携教育への応用. 第52回日本医学教育学会・学術大会. 2020年7月18日～10月17日. 日本医学教育学会公式ホームページWEB公開.

[その他（教育・研究講演等の社会活動・研究費等）]

- 1) 令和2年～4年度 日本学術振興会: 科研費 若手研究
研究課題: 災害支援者支援に関わる心理職のキー・コンピテンシーの解明
研究代表者: 藤澤美穂
- 2) 令和2年～4年度 日本学術振興会: 科研費 基盤研究 (C)
研究課題: 唾液アミラーゼ活性は痛みの客観的評価指標となるか?
研究代表者: 松浦誠 研究分担者: 藤澤美穂
- 3) 相澤文恵: 日本口腔衛生学会 査読委員
- 4) 相澤文恵: 岩手医科大学歯学会 評議員
- 5) 相澤文恵: ストレスとの上手なつきあい方. 株式会社寛文 幹部セミナー. 2019年12月. 二戸.
- 6) 相澤文恵: ストレスとの上手なつきあい方. 株式会社寛文 一般社員セミナー. 2019年12月. 二戸.
- 7) 相澤文恵: 『チーム医療リテラシー』『医療における社会・行動科学』など人文系の講義での観点から. 令和2年度第1回看護学部・教養教育センター FD/SD研修会. 2020年7月. 岩手医科大学
- 8) 藤澤美穂: テーマセッション「行動科学における基礎と臨床のリエゾン～知識を、人を、社会をつなぐ～」. 現代行動科学会第36回大会 企画、司会.
- 9) 藤澤美穂: 岩手県復興局 東日本大震災津波復興委員会女性参画推進専門委員会 委員
- 10) 藤澤美穂: 岩手県社会福祉協議会 被災者実態調査研究委員会 委員
- 11) 藤澤美穂: 日本臨床心理士会 研修企画検討プロジェクトチーム 委員
- 12) 藤澤美穂: 岩手県臨床心理士会 理事
- 13) 藤澤美穂: 日本集団精神療法学会 相互支援委員会 委員
- 14) 藤澤美穂: 現代行動科学会 理事
- 15) 藤澤美穂: 仙台市精神保健福祉総合センター ケース会議 講師
- 16) 藤澤美穂: 社会福祉法人盛岡いのちの電話 グループ研修 講師
- 17) 藤澤美穂: クラス（副）担任やキャンパスサポーターなどの観点から. 令和2年度第1回看護学部・教養教育センター FD/SD研修会. 2020年7月. 岩手医科大学

人間科学科体育学分野

[学術論文（英文・原著）]

- 1) *Hozawa, A., Tanno, K., *Nakaya, N., *Nakamura, T., *Tsuchiya, N., *Hirata, T., *Narita, A., *Kogure, M., *Nochioka, K., Sasaki, R., et al.: Study profile of The Tohoku Medical Megabank Community-Based Cohort Study. Journal of Epidemiology. <https://doi.org/10.2188/jea.JE20190271> (2020)

- 2) Takahashi, S., Tanno, K., *Yonekura, Y., *Ohsawa, M., *Kuribayashi, T., Ishibashi, Y., Omama, S., Tanaka, F., Sasaki, R., Tsubota-Utsugi, M., Takusari, E., *Koshiyama, M., *Onoda, T., Sakata, K., *Itai, K., *Okayama, A., *Iwate KENCO study group.: Poor self-rated health predicts the incidence of functional disability in elderly community dwellers in Japan: a prospective cohort study. BMC Geriatrics. 328 (2020)

[学術論文 (和文・原著)]

- 1) 小山薫, 高橋健, 佐々木亮平: 本学学生のご生活習慣と健康意識の検討. 岩手医科大学教養教育年報. 54: 57-66 (2019)
- 2) 佐々木亮平, *遠藤綾子, *岩室紳也, *佐藤沙希: 東日本大震災後の陸前高田市で取り組んできた市民協働による未来図会議の役割と波及効果 ~地域と一人ひとりのニーズを有事から平時につなげる必要性~. 岩手医科大学教養教育研究年報. 54: 75-95 (2019)

[著書]

- 1) 小山薫: 健康運動科学. 橋本印刷. 95 pp. (2020)

[国内学会発表 (一般講演)]

- 1) 高梨信之, 丹野高三, 佐々木亮平, 事崎由佳, 他7名: 東日本大震災後の仕事の変化によるメンタルヘルスの経験変化:TMM CommCohort Study. 第78回日本公衆衛生学会. 2019年10月. 高知市.
- 2) *前川明宏, *遠藤綾子, *佐藤沙希, *岩室紳也, 佐々木亮平, 他3名: 陸前高田市「はまってけらいん、かだつてけらいん運動」の震災後8年間の進展プロセス. 第78回日本公衆衛生学会. 2019年10月. 高知市.
- 3) *岩室紳也, 佐々木亮平: Maslow's hierarchy of needs の訳の検証. 第78回日本公衆衛生学会. 2019年10月. 高知市.
- 4) 事崎由佳, 丹野高三, 佐々木亮平, 高梨信之, 三上貴浩, 大塚耕太郎, 旭浩一, 那須崇人, 佐藤衛, 大桃秀樹, 清水厚志, 石垣泰, 坂田清美, 佐々木真理: 岩手県における東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査詳細二次調査受診者と未受診者の特徴. 第30回日本疫学会. 2020年2月. 京都市.
- 5) 坪田 (宇津木) 恵, 丹野高三, 佐々木亮平, 高梨信之, 事崎由佳, *小暮真奈, *寶澤篤, 坂田清美: 食品摂取回避行動の実態と関連要因の検討: 東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査. 第30回日本疫学会. 2020年2月. 京都市.

[その他 (教育・研究講演等の社会活動・研究費等)]

- 1) 小山薫: 令和元・2年度公益財団法人岩手県体育協会 スポーツ医・科学委員
- 2) 小山薫: 令和元・2年度岩手県スポーツ指導者協議会 代議員
- 3) 小山薫: 健康寿命をのばそう~グランドゴルフを楽しもう~. 矢巾町セカンドアカデミー in 岩手医大2019. 岩手医科大学. 2019年10月.
- 4) 小山薫: スポーツ医・科学サポート事業 (アスリート体力向上事業・アスリート研修会). 体力測定・測定結果の分析. 2019年12月.
- 5) 小山薫: いわてスーパーキッズ発掘・育成事業プロジェクトチーム 委員. 2020年6月.

- 6) 小山薫：自分を知るためのワークショップ（共同作業場）。令和2年岩手県立不来方高等学校体育学系スポーツ医・科学特別講座。2020年6月。
- 7) 小山薫：令和2年度一般社団法人日本体力医学会 評議員
- 8) 令和元年～3年度 厚生労働省：科研費 健康安全・危機管理対策総合研究事業
研究課題：災害発生時の分野横断的かつ長期的なマネジメント体制構築に資する研究
研究代表者：尾島俊之 研究班協力者：佐々木亮平
- 9) 平成30年～令和3年度 日本学術振興会：科研費 基盤研究（C）
研究課題：被災の回復期における虚弱の増悪・緩衝要因の解明と、地域特性に特化した予防活動
研究代表者：坪田恵 研究分担者：佐々木亮平
- 10) 佐々木亮平：陸前高田市令和元年度保健師栄養士等ミーティング災害研修 講師。2019年10月。陸前高田市。
- 11) 佐々木亮平：岩手県国民健康保険団体連合会第49回市町村保健事業担当者研修会 講師。2019年10月。盛岡市。
- 12) 佐々木亮平：2019年度チャイルドラインいわて「子どもの今を知る連続講座」講師。2019年11月。盛岡市。
- 13) 佐々木亮平：令和元年度（2019年度）第3回（震災後第93回）陸前高田市未来図会議 コーディネーター。2019年11月。陸前高田市。
- 14) 佐々木亮平：AIDS文化フォーラム in陸前高田 シンポジスト。2019年11月。陸前高田市。
- 15) 佐々木亮平：令和元年度中部保健医療圏新任保健師等研修会 講師。2019年11月。花巻市。
- 16) 佐々木亮平：公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 令和元年度災害時運動支援講習会「～避難所・仮設住宅で行うエコノミー症候群予防、生活不活発予防のための運動～」講師。2019年12月。静岡市。
- 17) 佐々木亮平：令和元年度久慈地域新任保健師交流研修会 講師。2019年12月。久慈市。
- 18) 佐々木亮平：広がるAIDS文化フォーラム2019報告書。2019年12月。陸前高田市。
- 19) 佐々木亮平、岩室紳也：令和元年度陸前高田市思春期保健事業はまかだ思春期教室 講師。2020年1月。陸前高田市。
- 20) 佐々木亮平：公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 令和元年度災害時運動支援講習会「～避難所・仮設住宅で行うエコノミー症候群予防、生活不活発予防のための運動～」講師。2020年2月。東京都。
- 21) 佐々木亮平：令和元年度（2019年度）第4回（震災後第94回）陸前高田市未来図会議 コーディネーター。2020年2月。陸前高田市。
- 22) 佐々木亮平：令和元年度陸前高田市（第2回）第1層協議体会議 講師。2020年2月。陸前高田市。
- 23) 佐々木亮平：令和元年度第4回矢巾町保健推進員研修会 講師。2020年2月。矢巾町。
- 24) 佐々木亮平：AIDS文化フォーラム in陸前高田2019報告書。2020年2月。陸前高田市。
- 25) 佐々木亮平：ラジオ番組「岩手医科大学 いのちから」健康な地域づくりのために大切なこと①② 講師。2020年3月1日、8日放送。
- 26) 佐々木亮平：令和2年度岩手県立不来方高等学校体育学系スポーツ医・科学講座「災害時の運動と心のケア」講師。2020年6月。矢巾町。
- 27) 佐々木亮平：令和2年度慶應義塾大学看護医療学部地域看護学分野公衆衛生看護管理展開論 講師。2020年7月。オンデマンド講義。神奈川県藤沢市。

- 28) 佐々木亮平：陸前高田市令和2年度保健師栄養士等ミーティング アドバイザー. 2020年7月. 陸前高田市.
- 29) 佐々木亮平：AIDS文化フォーラム in横浜報告. 2020年8月. オンライン報告. 横浜市.
- 30) 佐々木亮平：第1回岩手県自転車活用推進計画検討委員会 委員. 2020年8月. 盛岡市.
- 31) 佐々木亮平：第15回地方自治研究全国集会 in岩手 第9分科会（健康なまちづくり・私たちにできること～沢内村の活動から学ぶ～）「震災復興と健康づくり」報告書. 2020年8月. 盛岡市.
- 32) 佐々木亮平：令和2年度岩手医科大学公衆衛生看護学実習（保健所実習）「災害時の保健所保健師の活動」講師. 2020年9月. 矢巾町.
- 33) 佐々木亮平：盛岡ハートネット特別企画オンライン講演会「どうして差別が繰り返されるのか？～新型コロナを通して考える～」コーディネーター. 2020年9月. 盛岡市.
- 34) 佐々木亮平：令和2年度一関地域新任期保健師等研修会 講師. 2020年9月. 一関市.
- 35) 佐々木亮平：特定非営利活動法人福祉フォーラム・東北 理事（2011年～）
- 36) 佐々木亮平：陸前高田市 はまかだ運動推進アドバイザー（2018年～）
- 37) 佐々木亮平：社会福祉法人大空会 評議員（2017年～）
- 38) 佐々木亮平：秋田市学校適正配置地域ブロック協議会 委員（2019年～）
- 39) 佐々木亮平：一般社団法人日本公衆衛生学会広報/eラーニング委員会 委員（2020年1月～2021年9月）
- 40) 佐々木亮平：特定非営利活動法人日本健康運動指導士会岩手県支部 理事（2020年4月～2021年3月）
- 41) 佐々木亮平：公益財団法人盛岡市スポーツ協会 評議員（2020年6月～2023年3月）
- 42) 佐々木亮平：岩手県健康いわて21プラン推進協議会 委員（2020年7月～2022年6月）
- 43) 佐々木亮平：日本体力医学会東北地方会 幹事（2020年9月～2022年8月）
- 44) 佐々木亮平：岩手県自殺対策推進協議会 委員（2020年8月～2022年7月）
- 45) 佐々木亮平：岩手県自転車活用推進計画検討委員会 委員（2020年8月～2021年3月）

外国語学科英語分野

[学術論文（英文・原著）]

- 1) Yanagiya, C.: Narrative studies of “total pain” in the Works of G. Greene: A new approach to medical ethics education. Shirayuri Christian-Cultural Studies. 21 : 43-53 (2020)
- 2) Yanagiya, C.: Narrative analysis of patients’ models as portrayed by Graham Greene: Application to first-year medical ethics education. 永代印刷. 16 pp. (2020)
- 3) Onuma, H., *Nasukawa, K.: Velar softening without precedence relations. In Morpheme-internal Recursion in Phonology, ed. by Nasukawa, K. Boston and Berlin: Mouton de Gruyter. pp. 201-229 (2020)

[その他（教育・研究講演等の社会活動・研究費等）]

- 1) 令和2年～4年度 日本学術振興会：科研費 基盤研究（C）
研究課題：医療系学生のためのG. グリーン文学の応用研究
研究代表者：柳谷千枝子

- 2) 令和元年～2年度 日本学術振興会：科研費 新学術領域研究
研究課題：音韻系における併合操作と階層構の实在性を探求する研究
研究代表者：*那須川訓也 研究協力者：大沼仁美
- 3) ジェイムズ・ホップス：日本医学英語教育学会 評議員
- 4) ジェイムズ・ホップス：全国看護英語教育学会 評議員
- 5) ジェイムズ・ホップス：Journal of Medical English Education 編集委員
- 6) ジェイムズ・ホップス：The Language Teacher 査読者
- 7) ジェイムズ・ホップス：Nursing English Nexus 査読者
- 8) ジョナサン・レヴィン小倉：全国看護英語教育学会 副会長
- 9) ジョナサン・レヴィン小倉：全国看護英語教育学会 月刊Newsletter 編集長
- 10) ジョナサン・レヴィン小倉：Nursing English Nexus 査読者
- 11) ジョナサン・レヴィン小倉：英語で「共感」に関する表現を学ぼう！. 矢巾セカンドアカデミー
2019 in岩手医大. 2019年10月. 矢巾.

情報科学科数学分野

[学術論文 (英文・原著)]

- 1) Hasegawa, M., Kabata, Y. and Saji, K.: Capturing information on curves and surfaces from their projected images. International Journal of Mathematics for Industry. (in press)

[国内学会発表 (全国・一般講演)]

- 1) 江尻正一, 大場宏明, 佐々木敏彦: $\cos a$ 法における応力決定に関する誤差研究. 2020年度非破壊検査総合シンポジウム. 2020年6月. 東京 (オンライン).

[その他 (教育・研究講演等の社会活動・研究費等)]

- 1) 平成28年～令和2年度 日本学術振興会：科研費 基盤研究 (A)
研究課題：SOI式超高速X線イメージングによるレールの初期転動接触疲労の実態解明
研究代表者：*佐々木敏彦 研究分担者：江尻正一
- 2) 江尻正一：(公社) 日本材料学会「X線材料強度部門委員会」委員
- 3) 江尻正一：(一社) 日本非破壊検査協会「 $\cos a$ 法方式X線残留応力測定法研究会」委員
- 4) 江尻正一：(一社) 日本非破壊検査協会「 $\cos a$ 法によるX線応力測定通則 制定原案作成委員会」委員

情報科学科医用工学分野

[学術論文 (英文・原著)]

- 1) Ohmori, Y., Fukushima, N., Iwaya, T., Koeda, K., Takahashi, F., Nishizuka, S.: Recurrence risk evaluation in Stage IB/II A gastric cancer with TP53 codon72 polymorphism. Gastric Cancer. 120 : 1154-1161 (2019)

- 2) *Matsumoto, K., *Yaegashi, N., *Aoki, D., *Yamaguchi, S., *Takeshima, N., *Saito, T., *Ushijima, K., *Kamiura, S., *Takehara, K., *Yokota, H., *Satoh, T., *Sonoda, K., *Fujiwara, H., *Aoki, Y., *Kato, H., *Katabuchi, H., *Nakamura, K., *Ishikawa, M., *Sakaragi, N., *Fujiwara, K., *Matsumura, N., *Mandai, M., Takahashi, F., *Noda, K., *Yoshikawa, H.: Reduction in HPV16 and HPB18 prevalence among young women with low- and high-grade cervical lesions following HPV vaccination in Japan; 6-year analysis of MINT study. *Cancer Science*. 110 : 3811-3820 (2019)
- 3) *Tamura, A., *Fukami, T., *Hebisawa, A., Takahashi, F.: Recent trends in the incidence of latent tuberculosis infection in Japanese patients with lung cancer: a small retrospective study. *Journal of Infection and chemotherapy*. 26 : 315-317 (2020)
- 4) *Yamagami, W., *Nagase, S., Takahashi, F., *Ino, K., *Hachisuka, T., *Mikami, M., *Enomoto, T., *Katabuchi, H., *Aoki, D.: A retrospective study for investigating the relationship between old and new staging systems with prognosis in ovarian cancer using gynecologic cancer registry of Japan Society of Obstetrics and Gynecology (JSOG) – disparity between serous carcinoma and clear cell carcinoma. *Journal of Gynecologic Oncology*. 31 : e45. doi: 10.3802/jgo.2020.31.e45 (2020)
- 5) *Mutoh, T., *Shirai, T., *Ishii, T., *Shirota, Y., *Fujishima, F., Takahashi, F., *Kakuta, Y., *Kanazawa, Y., *Masamune, A., *Saiki, Y., *Harigae, H., *Fujii, H.: Protein C receptor and scavenger receptor class B type 1 negatively regulate vascular inflammation and represents novel endothelial autoantigens in Takayasu arteritis, *Nature Communications*. 11 : 1253. doi: 10.1038/s41467-020-15088-0 (2020)
- 6) *Onuki, M., *Matsumoto, K., *Iwata, T., *Yamamoto, K., *Aoki, Y., *Okadome, M., *Ushijima, K., *Kamiura, S., *Takehara, K., *Horie, K., *Tasaka, N., *Sonoda, K., *Takei, Y., *Aoki, Y., *Konai, K., *Katabuchi, H., *Nakamura, K., *Ishikawa, M., *Watari, H., *Yoshida, H., *Masumura, N., *Nakai, H., *Shigeta, S., Takahashi, F., *Noda, K., *Yaegashi, N., *Yoshikawa, H.: HPV genotype attribution in cervical cancer and precancer: implication for screening and vaccination in Japan. *Cancer Science*. doi: 10.1111/cas.14445 (2020)
- 7) *Tanaka, K., *Aoki, D., *Tozawa, A., *Suzuki, N., *Takamatsu, K., *Nakamura, M., *Tsunoda, H., *Seino, S., *Kobayashi, N., *Shirayama, T., Takahashi, F.: Comparison of ThinPrep Integrated Imager-Assisted Screening vs. Manual Screening of ThinPrep Liquid-Based Cytology Specimens. *Acta Cytologica*. doi: 10.1159/000507910 (2020)
- 8) Shiga, K., Nibu, K., *Fujimoto, Y., *Asakage, T., *Homma, A., *Mitani, H., *Ogawa, T., *Okami, K., *Murono, S., *Hirano, S., *Ueda, T., *Hanai, N., *Tsukahara, K., *Ota, I., *Yoshimoto, S., *Shinozaki, T., *Iwae, S., *Katagiri, K., *Saito, D., *Kiyota, N., *Tahara, M., Takahashi, F., *Hayashi, R.: Multi-institutional survey of cancer of the external auditory canal: JCOG head and neck cancer study group. *Laryngoscope*. doi: 10.1002/lary.28936 (2020)
- 9) *Kukimoto, I., *Matsumoto, K., Takahashi, F., *Iwata, T., *Tanaka, K., *Naka, M., *Yamamoto, K., *Yahata, H., *Nakabayashi, Y., *Kato, H., *Tsuda, N., *Onuki, M., *Yaegashi, N.: Comparison of two human papillomavirus genotyping assays for vaccine surveillance: PGMY-CHUV vs. Roche Linear Array. *The Tohoku Journal of Experimental Medicine*. 251 : 287-294. doi: 10.1620/tjem.251.287 (2020)

[学術論文（和文・原著）]

- 1) 小野保, 佐々木真奈美, 窓岩由実: 市販の生体センサを用いたリアルタイム遠隔生体情報モニタリングシステムの試作. 看護人間工学会誌. 1: 67-72 (2019)

[国際学会発表（一般講演）]

- 1) Ohsawa, M., Tanno, K., Ogasawara, K., Morino, Y., Takahashi, F., et al.: The absolute risk of death and cardiovascular diseases in past smokers with a 10-year cessation is identical to the risk in never smokers. American Heart Association Scientific Sessions 2019. Nov. 2019. Philadelphia, USA.

[国内学会発表（全国・一般講演）]

- 1) 秋山直美, 肥田圭介, 高橋史朗, 小笠原邦昭: 岩手医科大学附属病院における医師・歯科医師からの報告数を向上させる取組とその成果. 第14回医療の質・安全学会学術集会. 2019年11月. 京都.
- 2) *宮内栄作, *渡邊香奈, 高橋史朗, 前門戸任, 他: 切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対するUFT+CDDP+胸部放射線 (TRT) 併用療法とPEM+CDDP+TRT併用療法のランダム化比較第Ⅱ相試験 (NJLCG1001). 日本肺癌学会. 2019年12月. 大阪.
- 3) 小野保, 佐々木真奈美, 窓岩由実: Webブラウザを用いたリアルタイム遠隔生体情報モニタの試作. 第1回看護人間工学会学術集会. 2019年11月. 横須賀.

[その他（教育・研究講演等の社会活動・研究費等）]

- 1) 令和元年～令和3年度 日本医療研究開発機構: 生物統計家育成支援事業
研究課題: 京都大学大学院における臨床統計家育成のための教育カリキュラムの標準化のための研究開発
研究代表者: 佐藤俊哉 研究協力者: 高橋史朗
- 2) 令和元年～令和3年度 日本医療研究開発機構: 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
研究課題: 思春期女性へのHPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18 陽性割合の推移に関する長期疫学研究
研究代表者: 松本光司 研究分担者: 高橋史朗
- 3) 令和元年～令和3年度 日本医療研究開発機構: 臨床研究・治験推進研究事業
研究課題: 神経線維腫症Ⅱ型に対するペバシズマブの有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化比較治験
研究代表者: 藤井正純 研究分担者: 高橋史朗
- 4) 令和元年～令和3年度 日本医療研究開発機構: 革新的医療シーズ実用化研究事業
研究課題: TP53ステータス遺伝子発現プロファイルによる乳がんの予後予測および治療効果予測法の開発
研究代表者: 石岡千加史 統計解析責任者: 高橋史朗
- 5) 令和2年～令和6年度 日本医療研究開発機構: 医療研究開発革新基盤創成事業
研究課題: 月経前症候群 (PMS) に伴う精神症状/月経前不快気分障害 (PMDD) を対象としたピリドキサミンの有効性及び安全性を検討する第Ⅱ相医師主導治験

- 研究代表者：武田卓 研究分担者：高橋史朗
- 6) 令和2年～令和4年度 日本学術振興会：科研費 基盤研究 (C)
研究課題：介護予防事業の評価における活動量計の活用
研究代表者：下沖収 研究分担者：高橋史朗
- 7) 令和2年～令和4年度 厚生労働省：科研費 長寿科学政策研究事業
研究課題：介護領域におけるエビデンスに基づく高齢者のリハビリテーション適応等について
の研究
研究代表者：西村行秀 研究分担者：高橋史朗
- 8) 令和2年～令和3年度 日本医療研究開発機構：新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
研究課題：新型コロナウイルス (SARS-CoV-2) 肺炎患者に対するPAI-1阻害薬TM5614の有効性および安全性を検討する探索的Ⅱ相医師主導治験
研究代表者：張替秀郎 研究分担者：高橋史朗
- 9) 高橋史朗：東北大学病院 治験・倫理審査委員会研修 (AMED) 「研究倫理審査のポイント—科学的・統計学的観点から—」. 2020年2月. 盛岡.
- 10) 高橋史朗：岩手医学会 査読委員
- 11) 高橋史朗：日本癌治療学会「GIST診療ガイドライン改訂WG」委員
- 12) 高橋史朗：日本医師会「医師主導治験に係る手順書等の作成WG」委員
- 13) 高橋史朗：東北大学病院「病院臨床研究倫理委員会」委員
- 14) 高橋史朗：東北大学「認定臨床研究審査委員会」委員
- 15) 高橋史朗：日本がん臨床試験推進機構「プロトコール評価委員会」委員
- 16) 高橋史朗：東北臨床研究審査機構「共同臨床研究審査委員会」委員
- 17) 高橋史朗：日本産科婦人科学会 婦人科腫瘍委員会 データ小委員会 委員
- 18) 高橋史朗：婦人科腫瘍学会 代議員・査読委員
- 19) 小野保：第2回看護人間工学会学術集会. 教育講演「気軽に実験しませんか(オンラインデモ)」. 2020年9月27日. オンライン (Zoom)
- 20) 小野保：看護人間工学会 理事
- 21) 小野保：TOPIC盛岡NOC 幹事

物理学科

[学術論文 (英文・原著)]

- 1) Yamaguchi, S., Sato, E., Ieko, Y., Ariga, H., Yoshioka, K.: A capacitor dosimeter with disposable silicon-diode substrates for 4-MV X-ray beam detection in radiation therapy. *Phys. Open.* 2, 100026 (2020)
- 2) Yoshida, S., Sato, E., Oda, Y., Yoshioka, K., Moriyama, H., Watanabe, M.: Triple-sensitivity high-spatial-resolution X-ray computed tomography using a cadmium-telluride detector and its beam-hardening effect. *Appl. Radiat. Isot.* 159, 109089 (2020)
- 3) Sato, E., Yoshida, A., Someya, T., Oda, Y., Yoshida, S., Yoshioka, K., Sato, Y., Moriyama, H., Watanabe, M.: Near-infrared-ray computed tomography with 850-nm peak and high spatial

resolutions in first living-body window. Phys. Open. 2, 100010 (2020)

- 4) Sato, E., Yoshida, A., Someya, T., Yoshizawa, T., Morimoto, M., Mine, T., Oda, Y., Yoshida, S., Yoshioka, K., Sato, Y.: Near-infrared-ray computed tomography with 850-nm peak and high spatial resolutions. Ann. Rep. Iwate Med. Univ. Center Lib. Arts Sci. 54 : 1-8 (2019)
- 5) Sato, E., Oda, Y., Yoshida, S., Yoshioka, K., Moriyama, H., Hagiwara, O., Enomoto, T., Watanabe, M.: Measurement of penetrating photon spectra using a white power light-emitting diode. Ann. Rep. Iwate Med. Univ. Center Lib. Arts Sci. 54 : 9-12 (2019)
- 6) Yamaguchi, S., Sato, E.: Fundamental study on a disposable condenser dosimeter using a skin-insulated USB-A substrate with a silicon X-ray diode in radiation therapy. Ann. Rep. Iwate Med. Univ. Center Lib. Arts Sci. 54 : 58-67 (2019)

[学術論文 (和文・原著)]

- 1) 小松真：対向電極の先端形状が放電による染色液の脱色に与える影響. 岩手医科大学教養教育研究年報. 54 : 13-18 (2019)

[国内学会発表 (全国・一般講演)]

- 1) 小松真：水中放電後の放置時間が染色液の脱色に与える影響. 令和2年年電気学会全国大会. 2020年3月. 東京.
- 2) 小田泰行, 佐藤英一, 佐藤裕一, 吉田宗平, 山口哲, 有賀久哲, 吉岡邦浩, 佐藤公悦：最大値一定のデジタルアンプを使ったトリプルエネルギービームハードニングX線CT. 第119回日本医学物理学会学術大会. 2020年5月. 横浜. Web開催.
- 3) 佐藤英一, 小田泰行, 武田航太, 佐藤裕一, 吉田宗平, 有賀久哲, 吉岡邦浩, 森山穂高, 渡邊学：Cancerous-region visualization utilizing a meglumine-gadopentetate-glucose solution and 7.0-T MRI. 第119回日本医学物理学会学術大会. 2020年5月. 横浜. Web開催.
- 4) 佐藤英一, 小田泰行, 吉田宗平, 有賀久哲, 吉岡邦浩, 森山穂高, 渡邊学, 佐藤公悦：Photon-counting triple-energy X-ray computed tomography utilizing beam hardening. 第119回日本医学物理学会学術大会. 2020年5月. 横浜. Web開催.
- 5) 佐藤英一, 小田泰行, 佐藤裕一, 吉田宗平, 山口哲, 有賀久哲, 吉岡邦浩, 渡邊学：Triple-sensitivity X-ray CT using a cadmium-telluride detector and its beam-hardening effect. 第119回日本医学物理学会学術大会. 2020年5月. 横浜. Web開催.
- 6) 佐藤裕一, 佐藤英一, 小田泰行, 吉田宗平, 山口哲, 有賀久哲, 吉岡邦浩：High-sensitivity 850-nm-peak near-infrared-ray computed tomography with high spatial resolutions. 第119回日本医学物理学会学術大会. 2020年5月. 横浜. Web開催.

[国内学会発表 (地方会関係・一般講演)]

- 1) 佐藤裕一, 佐藤英一, 小田泰行, 吉田宗平, 吉岡邦浩：高感度・高空間分解能 850nm-NIR-CT. 第53回日本生体医工学会東北支部大会. 2019年11月. 弘前.
- 2) 佐藤英一, 小田泰行, 佐藤裕一, 吉田宗平, 吉岡邦浩：ビームハードニングを利用したトリプルエネルギー X線CT. 第53回日本生体医工学会東北支部大会. 2019年11月. 弘前.
- 3) 佐藤英一, 小田泰行, 佐藤裕一, 吉田宗平, 吉岡邦浩：CdTe アレーを用いたトリプルエネルギー X線CT. 第53回日本生体医工学会東北支部大会. 2019年11月. 弘前.

化学科

[学術論文 (英文・原著)]

- 1) Yoshida, J., *Okawa, Y., *Oyama, T., *Shimoda, N., *Uesugi, S., *Takagi, H., *Ito, Y., *Kimura, KI.: Inhibition of calcineurin and glycogen synthase kinase-3 β by ricinoleic acid derived from castor oil. *Lipids*. 55 : 89-99 (2020)

[国際学会発表 (一般講演)]

- 1) Yoshida, J., *Kudo, Y., *Ito, Y., *Kimura, K.: Effects of falcarindiol from Apiaceae vegetables on the gluconeogenesis in hepatoma cells. The 7th International Conference on Food Factors. Dec. 2019. Kobe, Japan.

[国内学会発表 (全国・一般講演)]

- 1) 吉田潤, *大川佑介, *小山卓矢, *下田希, *上杉祥太, *高木博史, *伊藤芳明, *木村賢一: ヒマシ油由来のヒドロキシ脂肪酸ricinoleic acidのcalcineurinとGSK-3 β に対する阻害作用. 日本農芸化学会2020年度大会. 2020年3月. 福岡.

[その他 (教育・研究講演等の社会活動・研究費等)]

- 1) 令和1年～3年度 日本学術振興会: 科研費 基盤研究 (C)
研究課題: マスト細胞の脱顆粒応答は分泌刺激の種類により変化するか?—イメージングによる解析—
研究代表者: 東尾浩典 研究分担者: 齋野朝幸, 横山拓矢
- 2) 平成30年～令和2年度 日本学術振興会: 科研費 若手研究
研究課題: 食材ポリアセチレン化合物による糖新生抑制効果と統合的代謝調節機構の解析
研究代表者: 吉田潤
- 3) 令和1年～3年度 日本学術振興会: 二国間交流事業 共同研究
研究課題: エンドファイトを利用したカメルーンにおけるバナナ病原菌の防除を目指した共同研究
研究代表者: 塩野義人 日本側共同研究者: 俵谷圭太郎, 佐藤智, 吉田潤, ナナン ルディアント アリエフタ, 中村智紀, 横山靖洋
- 4) 令和1年度 飯島藤十郎記念食品科学振興財団: 2018年度学術研究助成金
研究課題: 主要穀類・豆類に含まれる脂肪酸類の酵母を用いた多彩な機能性の評価
研究代表者: 木村賢一 研究分担者: 吉田潤
- 5) 令和2年度 三井住友信託銀行: 2020年度公益信託伊藤徳三ひまし研究基金
研究課題: 遺伝子変異酵母株の生育回復を基盤としたひまし油誘導体の糖代謝・免疫調節機構の解明と機能性開発
研究代表者: 吉田潤 研究分担者: 木村賢一, 上杉祥太
- 6) 吉田潤: 日本農芸化学会東北支部 第155回大会 世話人 (2020年4月～2021年3月)

生物学科

[学術論文 (英文・原著)]

- 1) Abe, H., *Sato-Okoshi, W.: Novel symbiotic relationship between a spionid polychaete and *Lingula* (Brachiopoda: Lingulata: Lingulidae), with description of *Polydora lingulicola* sp. nov. (Annelida: Spionidae). *Zoosymposia* (in press)
- 2) *Lavesque, N., *Hutchings, P., Abe, H., *Daffe, G., *Gunton, L.M., *Glasby, C.J.: Confirmation of the exotic status of *Marphysa victori* Lavesque, Daffe, Bonifácio & Hutchings, 2017 (Annelida) in French waters and synonymy of *Marphysa bulla* Liu, Hutchings & Kupriyanova, 2018. *Aquatic Invasions*. 15 : 355-366 (2020)
- 3) *Malan, A., *Williams, J.D., Abe, H., *Sato-Okoshi, W., *Matthee, C.A., *Simon, C.A.: Clarifying the cryptogenic species *Polydora neocaeca* (Annelida: Spionidae) : a shell-boring invasive pest of molluscs from locations worldwide. *Marine Biodiversity*. 50 : 51, 19 pp. (2020)
- 4) Abe, H., *Tanaka, M., *Taru, M., *Abe, S., *Nishigaki, A.: Molecular evidence for the existence of five cryptic species within the Japanese species of *Marphysa* (Annelida: Eunicidae) known as “Iwa-mushi”. *Plankton & Benthos Research*. 14 : 303-314 (2019)
- 5) Kan, K., *Kuroki, Y., *Sato, M., *Tosuji, H.: Larval recruitment process in the catadromous life history of *Hediste diadroma* (Nereididae, Annelida) in an estuary in Kagoshima Bay, Southern Japan. *Plankton & Benthos Research*. 15 : 30-43 (2020)

[学術論文 (和文・原著)]

- 1) 阿部博和, 松政正俊, *木下今日子, *鈴木孝男, *金谷弦 : 広田湾小友浦における2018年干潟ベントス調査の報告 (東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査の補足調査). *みちのくベントス*. 4 : 22-31 (2020)
- 2) 阿部博和, 松政正俊, *木下今日子, *鈴木孝男, *金谷弦 : 宮古湾津軽石川河口干潟における2018年干潟ベントス調査の報告 (東北地方太平洋沿岸地域生態系監視調査の補足調査). *みちのくベントス*. 4 : 12-21 (2020)
- 3) *太田瑞希, *小林元樹, 阿部博和, *伊藤萌, *富岡森理, *小島茂明 : 利尻島沿岸の等脚目甲殻類 (節足動物門). *利尻研究*. 39 : 47-54 (2020)
- 4) *小島茂明, *伊藤萌, 松政正俊 : 三陸海岸における巨大津波に伴うホソウミニナ個体群の変化. *国際沿岸研究センター報告* (印刷中)
- 5) 三枝聖, *藤田さちこ, *高宮正隆, *出羽厚二, *青木康博 : ホホアカクロバエ *Calliphora vicina* の低温環境飼育における積算時度 (ADH). *法医学の実際と研究*. 62 : 57-60 (2019)
- 6) *新田理人, 菅孔太郎, *長澤和也 : 鹿児島湾産マダイに寄生していたマダイヤツテムシ (新称) *Choricotyle elongata* (扁形動物 : 単生綱) とそのタイプ標本の観察. *Nature of Kagoshima*. 46 : 255-258 (2019)

[学術論文 (和文・その他)]

- 1) *小林元樹, *杉山高大, 阿部博和, *中村真悠子, *自見直人, *後藤龍太郎 : 2019年日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会自由集会2「環形動物の多様性と進化」開催報告. *日本ベントス学会誌*. 74 : 136-139 (2020)

- 2) *佐藤慎一, *折田亮, *山川彩子, 阿部博和, 松政正俊: 諫早湾閉め切りから20年, 有明海の現状と未来を考える (2). 日本ベントス学会誌. 74: 98-99 (2020)

[著書]

- 1) 阿部博和: コラム1.1 泳ぐユムシの謎. 日本ベントス学会 (編), 海岸動物の生態学入門 ―ベントスの多様性に学ぶ. 海文堂出版. pp.16-17 (2020)

[国際学会発表 (一般講演)]

- 1) Matsumasa, M., Abe, H.: Habitat alteration and benthic animal biodiversity in the Sanriku Coast after the 2011 earthquake and tsunamis. The Fourth Asian Marine Biology Symposium. Nov. 2019. Taipei, Taiwan.
- 2) Abe, H., *Kondoh, T., *Sato-Okoshi, W.: Identification guide to the planktonic larvae of marine annelids in Japan. The Fourth Asian Marine Biology Symposium. Nov. 2019. Taipei, Taiwan.
- 3) *Sato-Okoshi, W., Abe, H., *Kobayashi, G., *Hsieh, H.-L., *Chen, C.-P.: Survey of the family Spionidae (Annelida) in North Taiwan. The Fourth Asian Marine Biology Symposium. Nov. 2019. Taipei, Taiwan.
- 4) *Kobayashi, G., *Itoh, H., *Kanaya, G., Abe, H., *Kojima, S.: Population genetic structures of two ocy podoid crab species along the Japanese coast. The Fourth Asian Marine Biology Symposium. Nov. 2019. Taipei, Taiwan.
- 5) *Kondoh, T., Abe, H., *Sato-Okoshi, W.: Recolonization of two *Pseudopolydora* species (Annelida Spionidae) in relation to reproduction and larval development in a shallow, brackish and eutrophic lagoon after the 2011 tsunami. The Fourth Asian Marine Biology Symposium. Nov. 2019. Taipei, Taiwan.
- 6) *Kajiyama, K., *Okoshi, K., Abe, H.: Seasonal variation in distribution and species composition of infaunal spionid polychaetes (Annelida: Spionidae) in the intertidal zone of Tokyo Bay. The Fourth Asian Marine Biology Symposium. Nov. 2019. Taipei, Taiwan.

[国内学会発表 (全国・一般講演)]

- 1) *村井実, *逸見泰久, 松政正俊, *パトリシア R.Y. バックウェル: ハクセンシオマネキの誘引ダンス: 求愛ダンスとどう違うか?. 2020年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 2020年9月. オンライン.
- 2) 阿部博和, *西栄二郎, *自見直人, *田中正敦, *多留聖典, 菅孔太朗: 日本産イワムシ類 (環形動物門: イソメ科) における新たな隠蔽種の発見と各種の分布. 2020年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 2020年9月. オンライン.
- 3) *長崎礼資, *片桐耕, *岩渕巽, 阿部博和, *小林元樹, *西谷豪, *大越和加: 東北地方太平洋沖地震前後における女川湾湾奥のマクロベントス群集構造の変化 (2007-2020). 2020年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 2020年9月. オンライン.
- 4) 菅孔太朗, *黒木善史, *佐藤正典, *塔筋弘章: 鹿児島湾の汽水域におけるヤマトカワゴカイ (環形動物門ゴカイ科) の幼生加入過程. 2020年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会. 2020年9月. オンライン.
- 5) 阿部博和, *伊藤萌, *中嶋信美, *小林元樹: スピオ科多毛類 (環形動物門) 4種のミトコンド

リアゲノム解析：系統的位置の推定と遺伝子配置の再配列. 日本動物学会第91回大会. 2020年9月. オンライン.

- 6) 三枝聖, *高宮正隆, *藤田さちこ, *出羽厚二, *青木康博: センチニクバエ *Boettcherisca peregrina* の休眠蛹化と温暖環境飼育における積算時度 (ADH). 第104次日本法医学会学術全国集会. 2020年9月. 京都

[その他 (教育・研究講演等の社会活動・研究費等)]

- 1) 令和2年～4年度 独立行政法人環境再生保全機構: 環境研究総合推進費
研究課題: 海産環形動物絶滅危惧種の特定のための網羅的DNAバーコーディング: 希少種の探索, 新種記載と分類の整理, および分布情報の集積の促進
研究代表者: 阿部博和
- 2) 平成31年～令和3年度 日本学術振興会: 科研費 若手研究
研究課題: 貝類養殖における害虫多毛類の誘引・着底・穿孔のメカニズムとその起源を探る
研究代表者: 阿部博和
- 3) 平成31年度 厚岸町: 平成31年度 (2019年度) 厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金制度
研究課題: 奥田四郎博士が見たマドカスピオの正体を求めて
研究代表者: 阿部博和
- 4) 平成31年度 公益財団法人日本科学協会: 2019年度海外発表促進助成
研究課題: Identification guide to the planktonic larvae of marine annelids in Japan
研究代表者: 阿部博和
- 5) 阿部博和: 環境省「絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 海域その他無脊椎動物分科会」検討委員 (2019年8月～)
- 6) 阿部博和: 日本ベントス学会 自然環境保全委員会 委員 (2019年4月～)
- 7) 阿部博和: 東邦大学理学部 東京湾生態系研究センター 訪問研究員 (2016年4月～)
- 8) 松政正俊: 岩手生態学ネットワーク (代表: 松政正俊) 市民講座・人と自然と生態学第21回「私たちの暮らしの中の森の恵み」(企画・運営) (共催: 日本生態学会東北地区会). 2019年12月. 盛岡.
- 9) 松政正俊: 広田湾内の汽水域・干潟の現状について. 広田湾マガキ天然採苗試験結果報告会(岩手県水産技術センター主催: 於 広田湾漁協米崎・小友支所). 2020年4月. 陸前高田市.
- 10) 令和2年～6年度 農林水産技術会議: 農林水産研究推進事業委託プロジェクト研究
研究課題: ブルーカーボンの評価手法及び効率的藻場形成・拡大技術の開発
研究代表者: *堀正和 研究分担者: 松政正俊
- 11) 松政正俊: 岩手県「いわてレッドデータブック改定検討委員会」専門部会 委員 (2020年1月～)
- 12) 松政正俊: 岩手県立博物館協議会 委員 (2019年7月～2021年6月)
- 13) 松政正俊: 岩手県根浜海岸復興養浜技術検討委員会 委員 (2017年5月～)
- 14) 松政正俊: 日本生態学会東北地区会 委員 (2020年4月～2022年3月)
- 15) 松政正俊: 日本ベントス学会 運営委員 (2019年4月～2021年3月)
- 16) 松政正俊: 熊本大学くまもと水循環・減災教育研究センター沿岸環境部門 学外協力研究者 (2016年5月～2020年3月)
- 17) 松政正俊: Plankton and Benthos Research 編集委員 (2019年4月～2021年3月)
- 18) 松政正俊: Scientifica 編集委員 (Marine Biology)